

## 「諫早市入退院支援連携ガイドブック」アンケート調査結果【全体版】

### 1. 調査の目的

平成30年4月から運用を開始している「諫早市入退院支援連携ガイドブック」（以下、ガイドブック）について、ガイドブックの活用状況や運用後の入退院支援における現状、医療機関とケアマネージャーの連携による効果と課題を把握する。

### 2. 調査の概要

項目	内容
調査実施期間	令和2年12月18日（金）～令和3年1月29日（金）
調査対象事業所数	協力医療機関（病院）：13か所 協力医療機関（診療所）：14か所 居宅介護支援事業所：53か所 地域包括支援センター：5か所 小規模多機能型居宅介護：9か所 介護保険施設：23か所 計：117か所
調査対象者	(1) ガイドブック協力医療機関で入退院支援に携わっている部署または担当者【各機関1枚】 (2) 市内居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護の介護支援専門員 (3) 市内介護保険施設の介護支援専門員
主な調査内容	(1) 「諫早市入退院支援連携ガイドブック」の活用状況について (2) 「入退院時情報提供書」「退院時情報提供書」の活用状況について (3) 医療機関とケアマネージャーの連携状況について（ガイドブック運用後の変化、課題等）

### 3. 調査結果

#### (1) 調査票配付事業所等及び回答数

##### ■医療機関

	配布医療機関数	回答数	回収率
全体	27	24	88.9%
病院	13	12	92.3%
診療所	14	12	85.7%

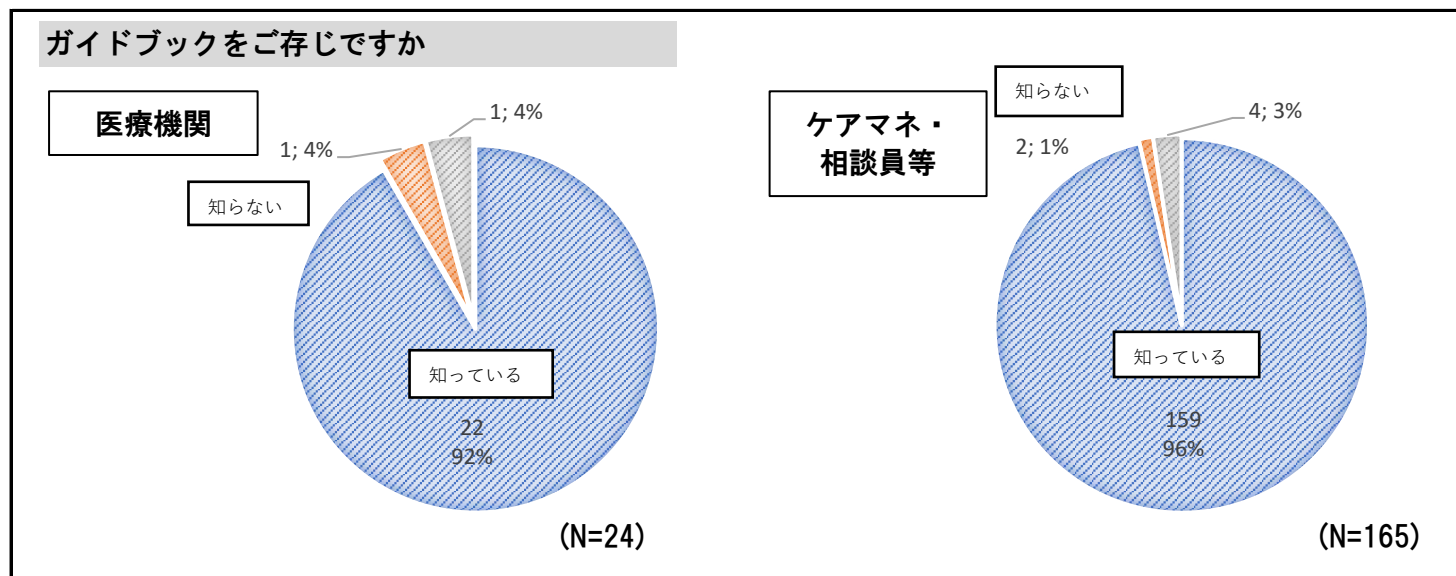
##### ■ケアマネージャー・相談員等

	配布事業所数	回答数(事業所)	回収率	回答者数
全体	90	81	90.0%	165
居宅	53	47	88.7%	99
包括	5	5	100.0%	33
小規模	9	9	100.0%	9
施設等	23	20	87.0%	24

## (2) 調査結果概要

### ①ガイドブックについて

医療機関については、92%、ケアマネージャー・相談員等については、96%で多くの関係者に認識されている。



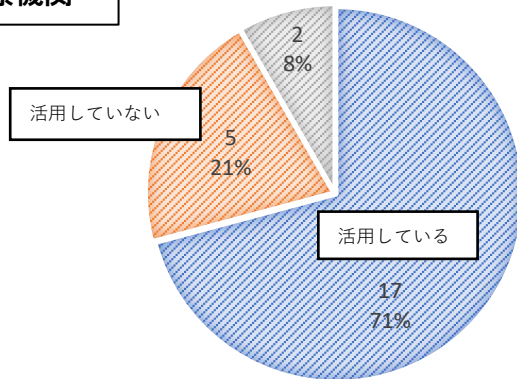
②ガイドブックのフロー図の活用について

医療機関では、71%、ケアマネジャー・相談員等は、60%がフロー図を活用。

主に「入退院支援時の行動プロセスや支店の確認・振り返りに活用」という意見が多かった。

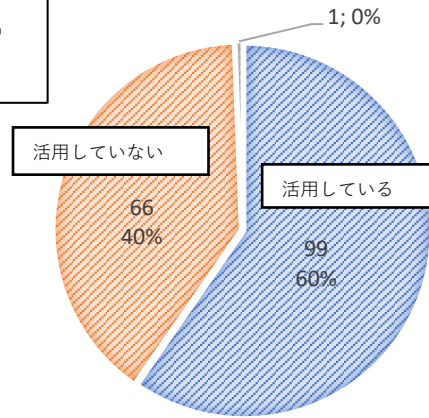
フロー図を活用していますか

医療機関



(N=24)

ケアマネ・相談員等



(N=165)

フロー図の活用方法について【複数回答】(上位3つ)

■医療機関

医療機関側の入退院支援時の行動プロセスや視点の確認、振り返りなど。	14	82.4%
ケアマネ等の入退院支援時の行動プロセスや視点の確認、振り返りなど。	11	64.7%
入退院支援に漏れがないか確認している。	7	41.2%

■ケアマネジャー・相談員等

自身の入退院支援時の行動プロセスや視点の確認、振り返りなど。	71	71.7%
入退院支援に漏れがないか確認している。	44	44.4%
他職員と入退院支援時の行動プロセスや視点の確認や振り返りなど。	34	34.3%

フロー図を活用していない理由について【複数回答】(上位3つ)

■医療機関

入退院支援のプロセスは理解しているため、フローがなくても行動できる。	3	60.0%
使いづらい	1	20.0%
その他	1	20.0%

(その他意見)

- ・直接的な連絡が多い。(診療所)

■ケアマネジャー・相談員等

入退院支援のプロセスは理解しているため、フローがなくても行動できる。	47	71.2%
その他	9	13.6%
医療機関側との共有が十分でなく、活用できない。	4	6.1%

(その他意見)

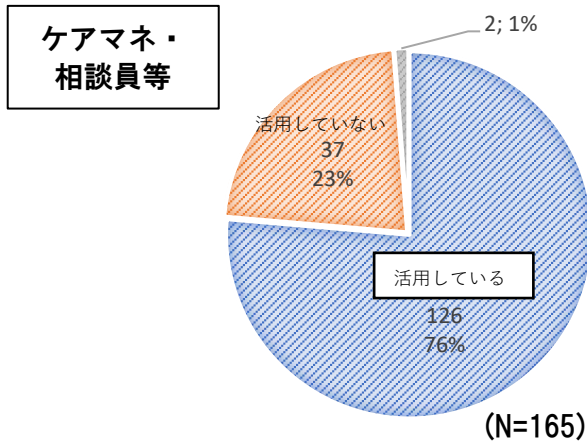
- ・知らなかった(特養)
- ・使う機会がなく忘れていました。今後活用したい。(居宅)
- ・特定の病院への入院が主で、電話にて連携が可能なため(特養)

### ③「入院時情報提供書」について

76%のケアマネジャー・相談員等が推奨様式を活用。「入院時、必要な情報を伝えられる」との意見が多く、活用していない理由としては、「独自の様式を使用しているため」が最も多かった。

また、医療機関ではケアマネジャー等から92%が入院時情報提供を受け取っており、「必要な情報を得ることができる」が最も多かった。

#### 入院時情報提供書を活用していますか



#### 活用して感じたこと【複数回答】（上位3つ）

##### ■ケアマネジャー・相談員等

入院時、必要な情報を伝えられる	106
	84.1%
使用することで利用者の情報が整理しやすくなった	60
	47.6%
入院時、情報提供するまでの時間が短縮された	55
	43.7%

#### 活用して感じたこと【複数回答】（上位3つ）

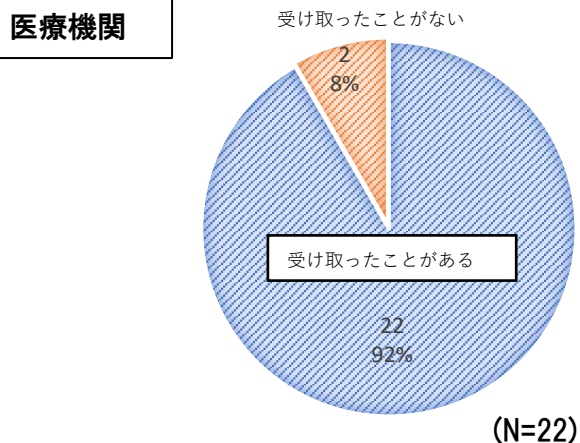
##### ■ケアマネジャー・相談員等

独自の様式を使用しているため	30
	81.1%
その他	9
	24.3%

（その他意見）

- ・ 諫早市在住の入退院該当者がおられませんでした。（居宅）
- ・ 入院先より求められた場合に活用し、求めが無ければ基本情報、ケアプランを送付している。（包括）
- ・ 利用者基本情報を使用している。（包括）
- ・ 入院時に看護・介護職員が付き添い、病院の様式に記入しているため。（特養）

#### 入院時情報提供書を受け取ったことがありますか



#### 受け取って感じたこと【複数回答】（上位3つ）

##### ■医療機関

必要な情報を得ることができる	20
	90.9%
情報が見やすく情報収集が効果的にできている	14
	63.6%
記入漏れがある	3
	13.6%

#### 受け取った情報の活用方法

【複数回答】（上位3つ）

##### ■医療機関

病棟やリハビリなど、他部署と共有している	20
	83.3%
家族背景や入院前の状況把握に役立っている	20
	83.3%
退院後の目標設定やサービス調整に活用している	15
	62.5%

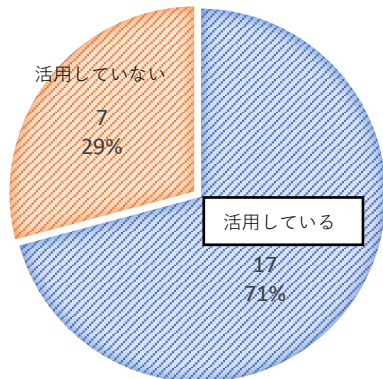
④「退院時情報提供書」について

71%の医療機関で推奨様式を活用。「情報が整理しやすい」「記入欄が小さく、必要な情報を書き込めないことがある」等の意見が多く、活用していない理由としては「院内の所定の様式を使用しているため」が最も多かった。

また、ケアマネジャー等は医療機関から85%が退院時情報提供書を受け取っており、「必要な情報を得ることができる」「情報が見やすく効果的に情報収集ができる」等の意見が多かった。

退院時情報提供書を活用していますか

医療機関



(N=24)

活用して感じたこと【複数回答】（上位3つ）

■医療機関

情報が整理しやすい	11	64.7%
退院後に必要になる情報が整理されているため、情報を伝えやすい	8	47.1%
記入欄が小さく、必要な情報を書き込めないことがある	13	76.5%



記入スペースを広げる等、カスタマイズして記入	8
リハサマリー等の資料を追加で添付	7
電話で情報提供	4
カンファレンスや面談などで情報提供	4
その他	2

活用していない理由【複数回答】（上位3つ）

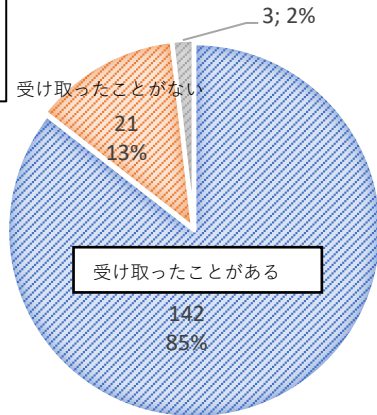
■医療機関

院内の所定の様式を使用している	6	85.7%
別の方法でケアマネジャー等と情報共有している	3	42.9%
院内で現在導入しているシステム改修が難しい	1	14.3%

退院時カンファレンスの実施	2
ケアマネジャー等との面談	2
電話	2

退院時情報提供書を受け取ったことがありますか

ケアマネ・  
相談員等



(N=165)

受け取って感じたこと【複数回答】(上位3つ)

■ケアマネージャー・相談員等

必要な情報を得ることができる	127
	89.4%
情報が見やすく情報収集が効果的にできている	77
	54.2%
必要な項目が不足している	19
	13.4%

※「退院時情報提供書」の項目に関する主な意見(一部抜粋)

- ・病名や内服薬など、診療情報提供書参照や別紙参照と書いてあるが、診療情報提供書・別紙と一緒に添えてない。
- ・退院後の通院について(例えば、かかりつけ医で継続or入院していた病院に外来通院(初回予約日))(居宅)
- ・時記事項が簡単に記入されている時がある。(経過及び治療状況の欄にもう少し、経過や特に現在の病状・留意点等を記入してほしい)(居宅)
- ・認知面についての情報記入項目を増やしてほしい。(居宅)
- ・ADLの情報がチェックのみなので、あまり参考にならない(居宅)

⑤医療機関との連携状況について【ケアマネ・相談員等】

ガイドブック運用後の、医療機関との連携状況の変化について【複数回答】

医療機関へ情報提供しやすくなった	109	66.1%
医療機関からの連絡が増えた	76	46.1%
医療機関へ情報提供する機会が増えた	64	38.8%
退院時に在宅生活に必要な情報を得やすくなった	60	36.4%
日常的に連絡等が取りやすくなった	44	26.7%
退院後の状況報告をする機会が増えた	23	13.9%
退院時カンファレンスへの参加機会が増えた	23	13.9%
特に変化を感じていない	19	11.5%
医師からの病状説明に同席する機会が増えた	12	7.3%
その他	9	5.5%

※その他の意見（一部抜粋）

- ・医療機関もだが居宅ケアマネや施設間での急な情報のやりとりにも活用することが増えた。（老健）
- ・お互いに情報共有をしようという意識が高まったように感じる。（居宅）
- ・病院側に担当ケアマネであることを伝えることにより、退院までの流れが円滑に行える。（居宅）
- ・まだ受け取ったことが無い。（特養）
- ・一時期増加したが、7月頃より退院時連携カンファレンスが減っている。情報が得にくくなった。（居宅）
- ・医療機関から退院時の情報提供書が送付される場合も多いのでそのままサービス事業所へ情報提供がしやすくなった。（居宅）

ガイドブック運用後の医療機関との連携について課題だと思う事【複数回答】

週末の入院の場合、3日以内の情報提供書の提出	64	38.8%
退院直前に支援を求められることが多い	37	22.4%
支援が必要だが、連絡なく退院するケースがある	28	17.0%
医療機関側が在宅生活のイメージ等を十分に持っていない	26	15.8%
医療機関内で情報の共有がうまくいっていないと感じる	21	12.7%
その他	21	12.7%
提供した情報が活用されていないように感じる	17	10.3%
必要性を感じているが業務多忙で対応できない	4	2.4%
日常的に連絡などが取りづらい	2	1.2%
医療的知識に自信が持てないため連携に踏み出せない	2	1.2%

※その他の意見（一部抜粋）

- ・コロナ禍でカンファレンスがなかなかできない状況での、方法伝達すべき様式の改良など。（居宅）
- ・診療所は情報を渡す仕組みがないところが多い。（居宅）
- ・病状説明や退院時のカンファレンスへの参加の機会をもっと増やしてほしい。（小規模）
- ・看護サマリーを本人や家族へ渡された際は、ケアマネに情報が来なかったり、届くのが遅くなることもある。（居宅）
- ・必要性を感じているが多忙な際は入院時情報を毎回すぐに提供できない時がある。その際は、とりあえず口答で留意点等を電話でお伝えしています。（居宅）
- ・周知できているHPと出来ていないHPの差が大きい。周知しているHPはすぐ連絡があり対応出来るが、周知できていないHPは入院日を過ぎても連絡なく、サービス事業所から入院したとの報告あり、連携が遅れることがある。（包括）
- ・入院時情報の提供行うが、連絡なく退院し退院時情報ないケースがあった。（居宅）

⑥ケアマネジャー等との連携状況について【医療機関】

ガイドブック運用後の、ケアマネジャー等との連携状況の変化について【複数回答】

ケアマネジャー等からの情報収集に応じる機会が増えた	15	62.5%
ケアマネジャー等からの連絡、情報提供が増えた	13	54.2%
ケアマネジャー等から退院後の状況報告が増えた	10	41.7%
早期に入院時の情報が得られるようになった	10	41.7%
病棟看護師等のケアマネジャー等が同席する機会が増えた	9	37.5%
退院時カンファレンスへケアマネジャー等の参加機会が増えた	4	16.7%
特に変化を感じない	3	12.5%
入院時に患者、家族から担当ケアマネジャー等の氏名等の情報が得やすくなった	2	8.3%
日常的に連絡等がとりやすくなった	2	8.3%
その他	1	4.2%

※その他の意見

- ・普段行っている支援を用紙によって具現化できている。（病院）

ガイドブック運用後のケアマネージャーなどへの連携についての課題【複数回答】

患者、家族が担当ケアマネージャーなどを覚えていないことがある	11	45.8%
退院後の状況報告はまだまだ少ない	8	33.3%
日頃から入院等を見越した意思決定支援が必要	7	29.2%
入院時に連絡がないケースがある	7	29.2%
病院側が在宅医療・介護についての知識が足りないと感じる	5	20.8%
入院時の情報提供が早期にもらえないことがある	5	20.8%
連携の必要性を感じているが業務多忙で対応できない	3	12.5%
病院側が在宅生活のイメージを持っていないと感じる	3	12.5%
その他	2	8.3%

※その他の意見

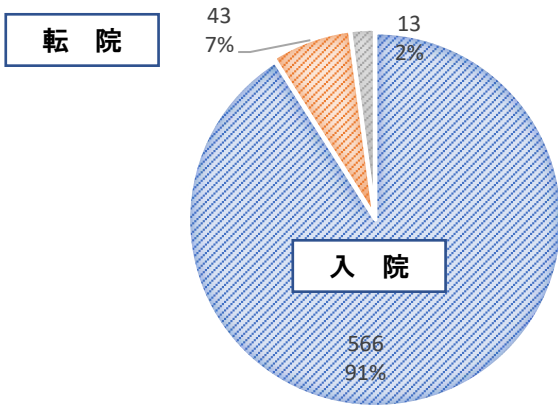
- ・今回の入院に伴って生じた問題ではなく、入院前からの問題については、ケアマネージャーさんが主体的に担当して頂きたいです。（病院）
- ・紹介元より情報を得ることが多い。必要に応じ連携できている。（病院）



⑦入院の状況

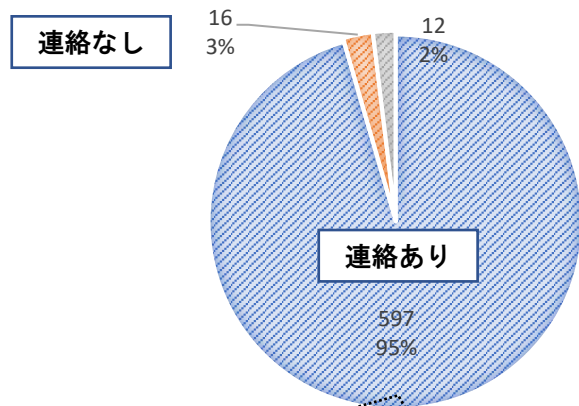
ケアマネジャー・相談員等が担当しているケースで「令和2年8月～11月末」までの期間に医療機関へ入院（転院）したケースは625件であった。

入院・転院の状況



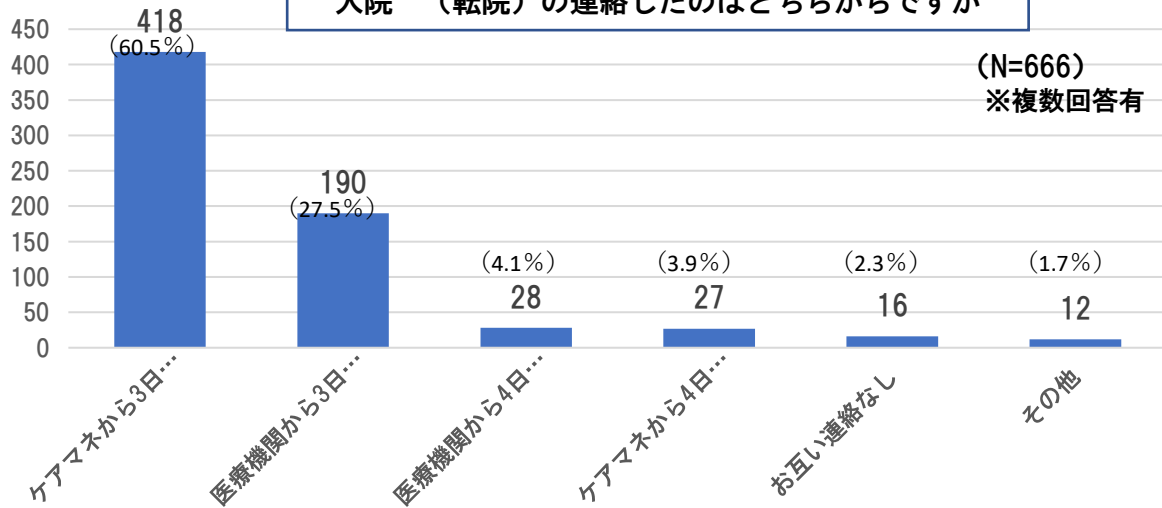
(N=625)

入院時の連絡状況

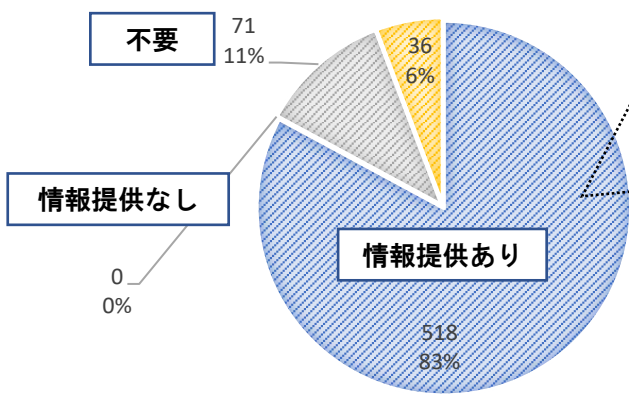


(N=625)

入院（転院）の連絡したのはどちらからですか



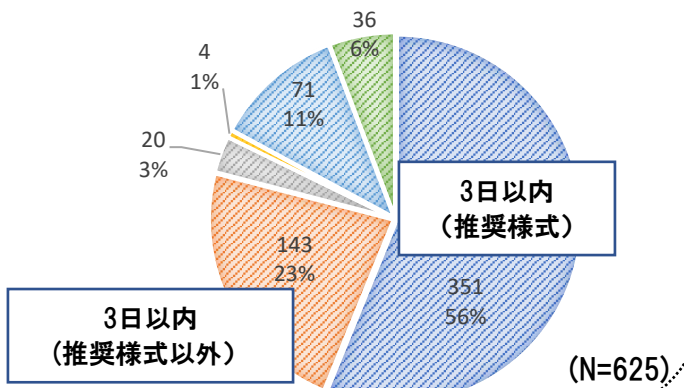
入院時の情報提供について



(N=625)

情報提供までの日数・推奨様式の使用の有無

○3日以内に情報提供あり： 79.0%  
うち、推奨様式使用： 67.8%



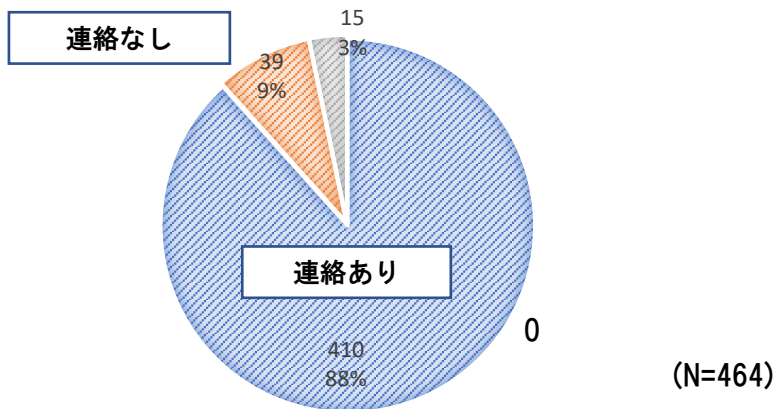
(N=625)

⑧退院の状況

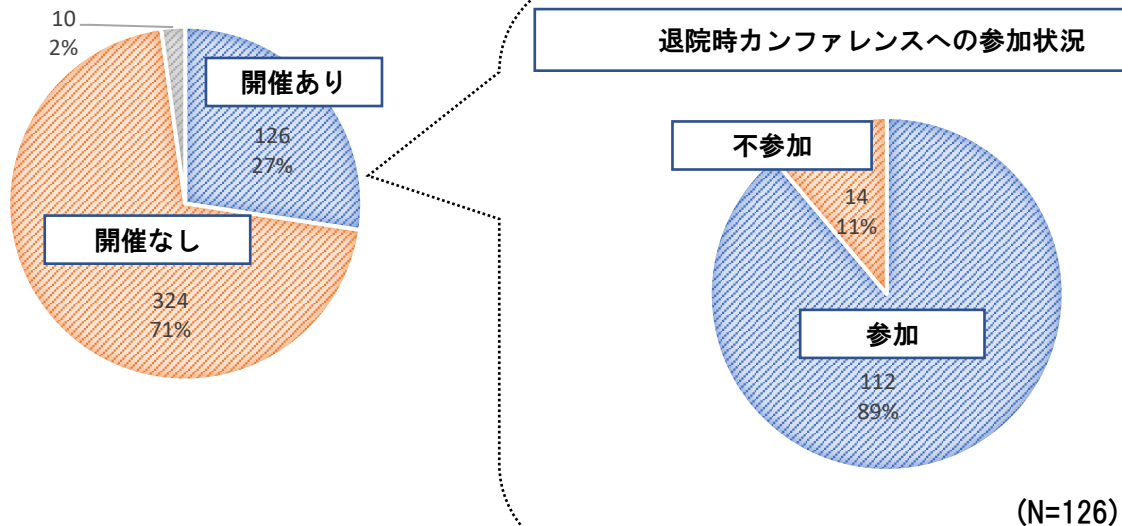
ケアマネジャー・相談員等が担当しているケースで「令和2年8月～11月末」までの期間に医療機関から退院したケースは464件であった。

退院時の情報提供について

1. 退院見込の連絡について（医療機関⇒ケアマネ等）



退院時のカンファレンスの開催について



退院時の情報提供について

